日本建築学会大会学術講演梗概集
（関東） 2011 年 8 月

空間資源を活かしたまちを楽しむ方法の検証

歴史的町並み地区・佐原における回遊性向上に関する研究　その５

正会員　○ 吉田健一郎＊　同　村本健造＊
同　木口彩＊＊＊＊　同　安川千歌子＊
同　窪田亜矢＊＊　同　永瀬節治＊＊＊

回遊性　佐原　地域資源
観光客　参加型　住民意識

1. 背景と目的

前稿では、戦略的なサイン実験により、佐原の「準回遊空間」としての下新町の可能性を探った結果、サインのみによる観光客の誘導の限界が明らかとなった。

本稿では、まちを楽しむ仕掛けを配することによる効果の検証について論じる。具体的には、前年に引き続き、8 月の夕涼みイベントの一環として企画した「下新町灯りあそび」、さらに 10 月の日中に開催された「建物公開」に合わせて企画した「下新町空間辞典」について述べる。これらイベントによる回遊性への効果とともに、地域資源の活用の可能性、さらに下新町の住民に対し、観光客やイベントに対する意識調査（アンケートによる）を行い、今後のまちづくり手法の在り方を探った。

2. 夜の空間演出と場づくり :「灯りあそび」

2.1 目的と手法

現在の下新町は、歴史的町並みでありながらも、住宅を中心とするエリアであり、観光客が訪れても地域が持つ本質的な魅力に気づくことなく通過してしまう傾向にある。2009 年に、地元組織「佐原おかみさん会」主催によるイベントの一環として、通り沿いに灯りの演出等を行った結果、観光客の誘導につながるとともに、住民の意識にも影響を与えたことが明らかになった。一方で住民自身のイベントへの関与が少なかったため、2010 年はさらに住民自らも参加することで、観光客との交流を生み出すことを目的とした。具体的には以下の３つの手法を用いた。

１）通りを灯りで演出することで、下新町の一体感と回遊ルートを強調する。

２）昔ながらの土間を持つ家など、建物の内側を活用し、住民と来訪者が交流できる場を設ける。

３）下新町の空間資源を引き立てる設えや演出を行い、住民や観光客に当地区の魅力を認識してもらう。

2.2 実施内容

既存の店舗やギャラリー、お寺などの空間資源を活かして観光客の立ち寄りを促すような場を４箇所で仕掛け（表１）、それらを灯りの道でつなぎ、まちとしての一体感を高めた。またその間の通行量・来訪者数も調査した。

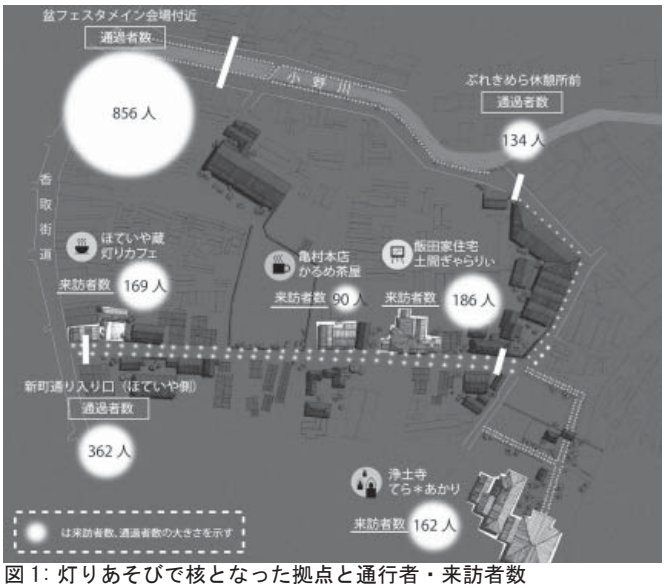

図 1: 灯りあそびで核となった拠点と通行者・来訪者数

表 1: 灯りあそびで空間演出や建物内側の活用を行った場所

	①灯りカフェ－ほていや	②カルメ茶屋－亀村本店	③土間ぎゃらりぃ－飯田家住宅	④てら＊あかり－浄土寺
空間の演出				
普段の空間と生業	・佐原銘菓を販売する菓子店で、裏に駐車場と２棟の蔵がある。 ・普段から蔵は休憩スペースとして解放されており、イベントや習い事教室にも使用される。	・歴史ある佇まいを残す砂糖問屋であり、手前が商店、奥が住居となっていて、蔵が隣接している。 ・現在は砂糖、水あめ等を販売。 ・普段から通りに対して開放的で、建物内部が見えやすい。	・間口方向の長さがあり、増築による特徴的な屋根形状を持つ木造平屋の伝統的住宅。 ・普段から通り沿いの土間をギャラリーとして開放している。	・下新町の通りの香取街道側からの突き当たりに位置する寺。寺の入り口を示す目印はないが、折れ曲がった参道の先には風格ある本堂が佇む。
活用方法	・駐車場を灯りで彩り、通りの立ち止るスポットにした。 ・蔵で下新町を紹介するスライドショーを上映し、来訪者同士が交流できる空間として活用した。	・カルメ焼きを販売し、中の土間でくつろぎながら、店の人、来訪者が交流できる場とした。店先には店主が作った灯りの装飾を置き、通りを彩った。	・広々とした土間に下新町に関するパネルを展示し、魅力を紹介した。色鮮やかなガラス細工と灯りの装飾が展示され、多くの来訪者が内側空間の演出を楽しんだ。	・下新町の通りから本堂へと続く参道を灯りで彩り、幻想的な風景を創り出した。

A Verification of the Way to Enjoy Town Utilizing Spacial Resources:
A Study for the Improvement of Visitor's Rambling Activities in Historic Area in Sawara(part5)

YOSHIDA Kenichiro, MURAMOTO Kenzo,
KIGUCHI SaiNAGASE Setsuji, YASUKAWA Chikako,
KUBOTA Aya, NAGASE Setsuji

2.3 実施結果

今回は建物内部の活用に協力いただいた家の方のみならず、灯りの設置にも各家の協力を得ることができ、昨年以上に住民参加型のイベントとなった。また２日間を通した来訪者数は、ほていやが 169 人、亀村本店が 90 人、飯田家が 186 人、浄土寺が 162 人となり、相応の誘導効果があったと言える。

下新町住民の 33 人からのアンケート結果によれば、灯りあそびについて、全体の 2/3 以上から「いつもと違う雰囲気や空間を楽しめた」、「町の魅力を実感できた」と回答し、この企画が住民に対してもまちの資源や魅力を伝えることに貢献できたといえる。ただし来客の大半は佐原の人々であったため、「観光客との交流を楽しめた」という感想はほとんど得られなかった。一方で、今回建物の内部を活用させてもらった方には、ヒアリングから客をもてなすことへの一定の意識向上もうかがえた。

3. 地域の価値発見のための道づくり「空間辞典」

3.1 目的と企画内容

毎年 10 月に行われる建物公開は、佐原の歴史的建物の内部を公開し価値を伝えるイベントである。建物の内側を公開することで、それらが立ち寄るスポットとなり得る。日中のまち歩きを楽しむ仕掛けとして、街路・建築等の空間の特徴を紹介し、地域資源を顕在化することを目的とした全 23 枚の空間紹介プレートを下新町の魅力と思われる箇所に設置し、「空間辞典」と名付けた（表２、図２）

表 2: 空間辞典の種類と紹介するポイント

空間辞典種類	紹介するポイントと内容
「Avenue」 通りの風景	風景を見る角度を変えるきっかけとする。 ・紹介箇所：石尊山、庭、建物連続立面
「Scale」 空間のスケール	建物や空間のスケールを身近な別のものと対比させ、違った視点から空間を見る。 ・紹介箇所：下屋空間、通りの断面
「Use」 空間の使われ方	空間や建物の用途の視点から空間を見る。 ・紹介個所：山車蔵、土間
「Design」 建物のデザイン	建築的特徴やデザインの良い点を紹介し、専門的な視点から見た下新町を紹介する。 ・紹介個所：蔵、家屋

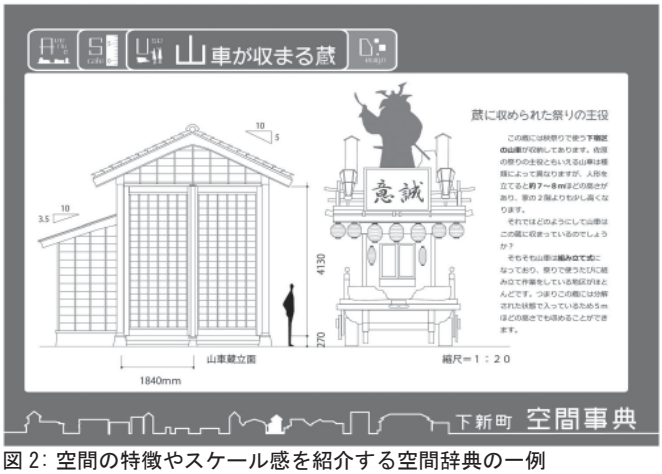

図 2: 空間の特徴やスケール感を紹介する空間辞典の一例

3.2 実施結果

観光客からのヒアリングと、住民に対して行ったアンケートより、本企画に対する感想を聞くことができた。「いつもと違う雰囲気を味わえた」、「今まで知らなかった知識を得ることができた」等といった回答が多く見られ、普段は気づきにくい空間資源の価値を伝えることができた。また、ヒアリングを行った観光客 26 人のうち 19 人が「歴史的町並みにとても興味がある」等と述べている。下新町における空間に関する情報の掲載は、そうした観光客を楽しませるための一手段として、また住民が地域資源の価値を再認識するきっかけとして有効であり、両者に興味を持ってもらえるコンテンツについてさらに議論の余地がある。

4. 住民の観光・イベントに対する住民の意識

4.1 イベントの開催について

下新町において観光を意識したイベントの開催に対する是非についての意見を同様に住民 33 人から得ることができた。その中で、全体の 94% である 31 人がイベントの実施に対して肯定的であることが分かった。「自宅にあるものや建物を活用してほしい」、「イベントの手伝い・企画にも協力したい」という意見もあり、その意識の高さから、住民参加型の企画も可能性があると考えられる。

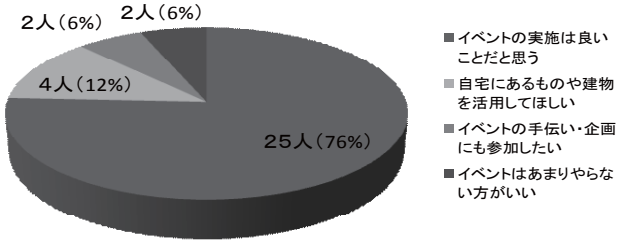

図 3: 観光客のためのイベント実施に対する住民の意見

4.2 観光客の増加について

同アンケートにおいて、下新町エリアを歩く観光客増加の是非についての意見を求めたところ、全体の約 6 割にあたる 20 人が「歩いてもらうのは良いが、静かな環境は保ちたい」と回答した。しかし「観光客が来ることに抵抗がある」という回答をした人は一人もいなかった。4.1 で記したイベントに対する意見と合わせて、住環境を損なわない範囲で観光客を迎え入れる施策について検討していく必要がある。

5. 今後のまちづくりに向けて

空間演出と建物の内側への呼び込みによる交流の場づくりを目的とした「灯りあそび」では、住民に「もてなす側」としての意識を高める効果があったといえる。また、下新町の空間資源の見方を提示し、まち歩きを楽しんでもらうことを目的とした「空間辞典」は、地元住民・観光客双方が地域の魅力を再認識するきっかけとなった。まずは観光客を受け入れる側である地元住民が地域の価値に気付き、イベントを通してもてなすことを楽しむようになることが、まちづくりへの気運を高めていく上での重要な鍵を握ると言えるだろう。

* 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻　修士課程
** 東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻　准教授・工博
*** 東京大学先端科学技術研究センター　助教・工博
**** 東京大学大学院新領域創成科学研究科社会文化環境学専攻　修士課程

*Master Course, Dept, of Urban Eng., Faculty of Eng., Univ. of Tokyo
**Associate Prof., Dept, of Urban Eng., Faculty of Eng., Univ. of Tokyo
***Assistant Prof., Research Center for Advanced Science and tech., Univ. of Tokyo
****Master Course, Graduate School of Frontier Sciences, Univ. of Tokyo